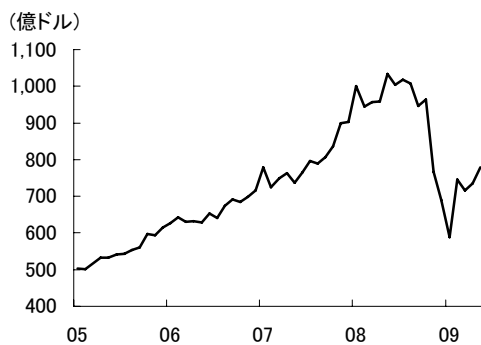


## 中国の景気対策のわが国輸出への効果 ～中国の輸入統計からみると限定的～

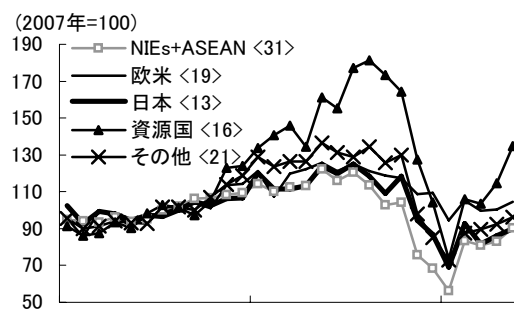
- (1) 5月の中国の輸入額は前年同月比▲24.8%の減少。ただし、端午節などによる季節要因を除いてみると、前月比+5.9%の上昇(図表1)。中国の輸入は1月を底に持ち直し傾向。
- (2) もっとも、中国の輸入を相手地域別にみると大きな違い。  
 ① 資源国からの輸入額は急増(図表2)。とりわけ、オーストラリア、ブラジル、ロシアからの輸入額は、いずれも5月に今年の月平均を上回る水準。さらに、足元の資源価格が前年を大きく下回っていることを踏まえれば、輸入数量ベースでは昨年を大きく上回っている筈。  
 ② 一方、アジア諸国や欧米からの持ち直しは限定的(図表2)。とりわけ、日本やNIEs、ASEANからの5月の輸入額は今年の月平均を大きく下回る水準。
- (3) 資源国からの輸入急増の背景には、大規模な公共投資と潤沢な備蓄拡充資金による資源調達への拡大。一方、アジア諸国や欧米からの輸入が伸び悩んでいる背景としては、①消費刺激策の対象製品の多くが地元メーカー製品、②政府による本国製品の優先調達、の2点が指摘可能。
- (4) 以上を踏まえると、中国の景気対策によるわが国へのプラス効果は限定的と判断可能。化学など素材製品に対する需要は拡大するとみられるものの、わが国輸出の47%(2008年度)を占める機械・部品類(除く建設機械・自動車)への大きなプラス効果は期待薄(図表4)。

(図表1)輸入額の推移(季節調整値)



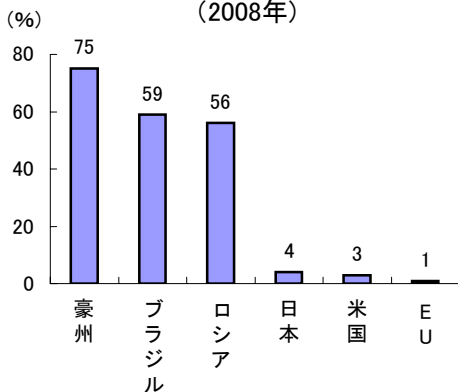
(資料)中国海関総署を基に日本総研作成(年/月)  
 (注)名目値を日本総研で季節調整。

(図表2)地域別輸入額の推移(季節調整値)



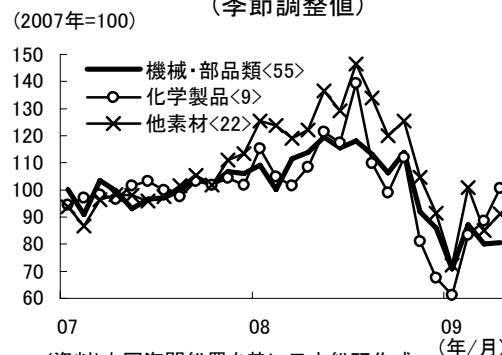
(資料)中国海関総署を基に日本総研作成(年/月)  
 (注1)名目値を日本総研で季節調整。  
 (注2)<>は2008年のシェア。  
 (注3)資源国とは、豪州・ブラジル・ロシア・中東・南アフリカ。

(図表3)輸入額に占める資源類のシェア(2008年)



(資料)中国海関総署

(図表4)日本からの輸入額の推移(季節調整値)



(資料)中国海関総署を基に日本総研作成  
 (注1)名目値を日本総研で季節調整。  
 (注2)<>は2008年のシェア。